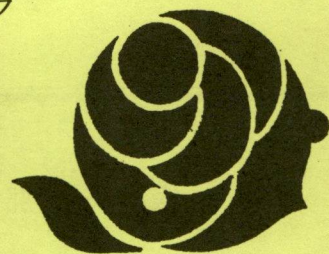


Rosa Plunula

ローザ・プルムラ

●茨城大学・大学教育研究開発センター



ニュースレター №5

最近、他大学の教養教育の実施状況の一端を知る機会を得た。総合科目と主題別ゼミナール（他大学では基礎セミナーともいう）は、多くの大学で特徴あるものにしたいと考えていることがうかがえた。しかし、総合科目は評判の良い人気科目である一方、コーディネーターの先生が大変な苦勞をされている。今後、継続していくにはどの大学でも学内の多くの先生方の協力が必要となることは言うまでもない。本学では、現在教育学部が責任部局となっているが、他学部との協力が十分得られるような仕組みができることが望ましい。

主題別ゼミナールは、全学で統一的に実施している大学が多い。特に文系と理系の学生を一緒にしたクラス分けで実施しているところもあったが、長短あるように思われる。しかし、この科目の趣旨に沿ったガイドブックが全学的なものとしてあってよいのではないかと思う。本科目だけ責任部局が各学部という点、一考を要するかもしれない。

それにしても、学生諸君からの質問の少なさや氣力を感じるのが少ないように思うのは私だけであろうか。頭を十分活動させ、理解しようと努力しながら授業を受けていればいくつかの疑問が浮かび、それは質問によって理解が深まる場合もあるのではなかろうか。授業時間はぜひ有効に過ごしてほしいものと思う。

（奥）

はじめての試験だー

アツーイ、蒸しあつーい！早く来い、ナガーイ夏休み！オット、その前に試験だぜ！

さて、試験科目は？。ゲッゲーこんなにあるの！と、慌てている学生はいませんか？。近頃は、1－2年次でたくさん単位を取る者が多く、2年で平均80単位、多い場合には120単位を取っている学生がいる学部があります。たくさん勉強するのはよいことですが、授業の取り過ぎには御用心！。大学の授業は、講義90分に対し予習、復習に180分かかることを基準にし、組まれていることをご存じですか。大学での授業時間割を目一杯組んでしまうと、試験期に地獄を見ることになりますよ。大学に入ったからには、じっくり勉強して頂きたいものです。

大学での試験。また試験！そろそろ試験、試験・・・の生活からも解放されたいと思いませんか？

（いや、すでに解放した者もいるかな？）。学生である限り付いて回る宿命と覚悟を決めていますか？。高校での試験には、その向こうに大学入試が控えていたでしょう。では、大学での試験の先に何か見えますか？。一部には、大学院進学、教員採用、就職・・・試験が見えるかもしれません。しかし、それは、大学入試ほど鮮明ではなく、遠い先のぼやけたものでしょう。（目の前には、大学卒業に必要な単位獲得との目標があるでしょうが）。そうなんです、大学での試験には決まりきった拘束はないのです。今のこの時期をどのように有効に活かすかは学生一人々が決まればよいのです。今の時期に何を獲得し、身につけるのか各自の目標を定めて、慌てず騒がず取り組めると最高ですね！。

（横沢）

キャンパス情報

人文学部から

4月に本学に入学した1年生もようやく大学生活に慣れてきたと思います。前学期の試験も間近に迫ってきました。人文学部所属の学生諸君に2つほどお知らせがあります。まず第一に、夏期休業中に教職科目の集中講義が幾つか行われます。教職科目は原則として指定された学年に履修するようになっていますから、教職をとる学生は人文学部の掲示板に注意してください。例えば1年次生向けには「中等教育原理」の集中講義が行われます。第二に、非常に残念なことです。昨年度人文学部で他の学生の提出したレポートをレポート受けから勝手に取り出し、名前だけを書き換えて提出すると

いうことが起こりました。（この件に関しては既に学部の掲示板にも掲示してあるので知っている人も多いと思います。）これは試験中のカンニングよりずっと悪質な行為で決して看過することは出来ない事件です。今後このような事が再発しないことを願うばかりです。

さて、コミュニケーション学科所属の2年生の内20数名がこの夏カナダのマギル大学での英語集中講座に参加しますが、それ以外の学生諸君も色々と夏休み中の計画を立てていると思います。大学生の特権であるこの長い夏休みを有意義に過ごし、気分を新たに後学期の授業に臨んでください。

（伏見）

教育学部から

入学後3ヶ月を経過して、教育学部の新入生諸君もようやく大学生活に慣れてきたのではないのでしょうか。

今年度は入学時のガイダンスに加えて、数日間の履修相談の日を設定し、かなりこまやかに学生諸君の履修相談に対応できるようにしましたが、有効に利用していただいたでしょうか。主題別ゼミナール等の機会を利用して、履修上の未解決の問題はなるべく早く解消してください。

また、今年度から教員養成課程における教職に関する科目は履修指定によって各曜日の午前中にカリキュラムが組まれています。履修指定通りに履修すれば未履修者がでないように配慮されてい

ますが、学生諸君の履修計画にそれが有効に機能しているでしょうか。

教育学部全体で見るとかなりカリキュラムが複雑なように見えますが、学生諸君が取得すべき履修科目は所属する課程にかなり拘束されているので、履修そのものはそれほど複雑ではないと思います。つまり、カリキュラムの複雑さに比べて履修の自由度は低いと言えます。履修の自由度が低いということは、しかるべき単位を取得できないと、その影響が後々まで残るということです。間近に迫った試験に心して備えてください。後顧の憂いを残さないために。

（相馬）

理 学 部 か ら

理学部が5学科から新3学科に改組されて2年余りが過ぎ、3年次生までが新学科になっています。今年度は3年次編入生が15名あり、教務委員会で単位認定の案作りをしたのですが、その際に改めて、理学部のカリキュラムが年ごとに変遷して複雑であることに気づかされました。今回、カリキュラムに関連して気がついたことを少し書いてみましょう。実は平成6年に理学部改組を先取りする形でかなり大幅なカリキュラム改編が行われました。そのときに専門科目に共通科目という枠ができ、目玉として「対話ゼミナール」を作りました。平成7年に理学部改組、平成8年に教養部の解体と続きましたが、同時に全学的なカリキュラム改革がなされました。その間、全部専門に引き上げた「自然」の教養科目を1年後に復活させるという

こともありました。1・2年次生と3年次生で、教養部分の卒業要件がかなり違っているのは、そのためです。また、カリキュラム改革の目玉として、「主題別ゼミナール」(教養)を作りましたが、今年から実施されます。7月中に「主題別ゼミナール」のクラス編成を行う予定ですので、理学部の2年次生は注意して下さい。理学部では、「対話ゼミ」と「主題別ゼミ」という似たような(専門と教養の違いはあっても)授業があり、先生達の負担は大きいと思います。新体制になってから、何でもいいからと単位を取りまくる学生が少なくないようです。2年を終った段階で卒業に必要な単位の大半を取っている人も中にはいるようです。いろいろと勉強することはよいことですが、自分の将来計画を考えて焦点を絞ることも重要でしょう。(日合)

工 学 部 か ら

日立キャンパスでは現在整備計画が進行中で、特に今は建設ラッシュです。昨年のシステム工学科新棟の完成に続いて今は情報工学科棟の新築工事が今年度完成の予定で進行中です。また昨年度の補正予算で認められたサテライトベンチャービジネスラボラトリ(SVBL)の施設の建設が開始されました。それらの工事のためキャンパスがかなり狭く感じられます。数年前までは教職員と学生が自由に構内に車を乗り入れ駐車出来ましたが、現在では許可制になり、パスカードを利用した自動ゲートが設けられ、車のキャンパス乗り入れが規制されています。また次に予定されている都市システム工学科の改装に続き残りの学科棟の新築や改築が計画されています。これからかなり長期にわたり工事が継続されることを考えると、現在の交通規

制が今後暖くなることは期待できそうにありません。さて聞き慣れないSVBLについて少し説明します。この施設は次世代の科学技術やベンチャービジネスの萌芽となりそうな独創的な技術の実用化を目指した研究の推進と研究開発による実戦的な教育により創造的な人材を育成することを目的とした施設です。昨年度までに工学系学部を持つ24の国立大学に認められています。

キャンパスが離れていて1年生には工学部の情報は入りにくいと思いますが、時間を見つけて日立キャンパスを訪れてみて下さい。たとえば毎週木曜日夕方開かれているイブニングセミナーにでも参加してはいかがですか。また、分からないことや聞きたいことがあれば気軽に水戸キャンパスに出講している工学部の教官に声をかけてみて下さい。(神永)

農 学 部 か ら

1年生の皆さん!。大学生活はいかがですか。エンジョイしていますか?。今回は農学部の附属施設であ

る農場について紹介します。

附属農場は農学部隣接していて、面積は22haもあります。水田、畑、果樹園、畜舎、温室等がある、

現在、都市近郊型の近代的農場の建設を進めています。水田、畑作、園芸、農業機械の各部門に専任の教官がいて、稲、麦、野菜、果樹、草花等の栽培研究をしています。また、和牛、豚、緬羊も飼育・管理しています。

魅力ある実践的農業教育を目指しており、実習科目として農牧場一般実習、農牧場専門実習および農業安全管理実習を、授業科目としては農作業技術論、農業安全管理論等を開講しています。卒業論文の履修も可

能です。

今年から始まった2年生対象の農業・農村体験ゼミ（主題別ゼミナール）には予定していた人数を上回る受講者が集まり、実施を楽しみにしています。農牧場専門実習では、田植えから稲刈りまで、稲作の全行程を体験し、学んでみようという5名のチームが誕生し、行動を開始しました。

皆さん！2年生になったら、ぜひ、農場での学園生活も体験してください。（松田）

大学の授業に参加して

富岡ゆかり（農学部、1年）

「農学部で好きな農業を思い切り学んでみたい」。その夢がかたちとなり、専門の授業を受けはじめてから約1ヶ月が過ぎようとしています。好きな農業を学ぶことができていることが、まだ夢のような気がします。

今、世界では食糧問題が叫ばれています。その食糧を作り出す農業そのものの在り方も、大変注目されています。

“ライフサイエンスとは何か”という専門授業の時、「無農薬有機農法で、一部の人は安全な食物を食べられるかもしれないが、その裏で餓死をする人がいるという現実を知らなければいけない」と先生が講義されたことがあります。この講義を聞いた時に、改めて農業が私たち人間にとってどれほど大切なものであるかということを感じました。そして、一部の人たちだけに有用な農業ではいけないということも感じました。

宮沢賢二が「あすこの田はねえ」の詩の中で、泣きながらからだに刻んでいく勉強があたらしい芽をぐんぐん吹いてどこまで伸びるかわからない、という部分があります。

今話題になっている遺伝子組換え作物や、生命の源である土や水のことなど、学んでいる授業内容はとても興味深いものばかりです。宮沢賢二のような気持ちで、講義を聞き、農学を学んでいきたいと思います。

小櫃 誠（教育学部、1年）

大学生となつてはや1か月がたつ。この1か月は本当にあつという間であつたが、少しずつ生活のリズムができ、周りを見わたせる余裕もできた。

大学の修業に参加して、いくつか思ったことはあるが、大学というところが、自分から求めていく場所であるというのが1番の実感である。高校までは、学校に行くとしてすでに時間割が決まっており、すべてその予定の通りに行なわれていた。生徒は受け身でよかったのである。しかし、大学は、いくつかの必修科目があるものの、ほとんどが選択であり、外国語をはじめ、自分の学びたい科目が学べる、興味のある分野をとことん追求できるのである。

また、授業を受ける前の履修科目の選択の際には、学科の先輩方からいろいろなアドバイスを頂き、とても参考になった。先輩方に感謝したい。

当分の間は、授業を受けることで精一杯の日が続くかもしれないが、もう少し慣れたら、サークル活動など、授業以外の時間も積極的に動いてみたい。

茨城大学での4年間を充実したものにできればと思う。



V o i c e

留学生から見た茨城大学

ト 国強（工学部2年）

昨年、茨城大学工学部に合格して、やっと日本に留学の夢がかなった。今振り返って見ると、日本語学校では、緊張と忙しさの日々だったが、大学に入ったら、時間に余裕があり、キャンパスライフを楽しみにしていました。茨大に入って本当によかったと思っています。なんといっても、ここは人情に熱いコミュニティに支えられているからです。留学生に対して、教官たちも親切で、学生たちも偏見を持っていなさそうです。国立大だから、留学生に対する経済的負担もかなり少なく、また、チュータ制度によって、チュータの日本人学生からキャンパスライフの指導をいただいで楽しい大学生生活をスタートできるようになりました。茨大では留学生向けの国際交流企画により、日本の学生や地域の住民と交流し、日本文化に接することができます。せっかくの留学生生活をより充実したものにするために、私も積極的に国際交流活動に参加してきました。他国の人との交流により、本当の優しさとは一体何だろうか、それは同情でもあわれみでもない、一人の人間として、その人を理解し、文化や考え方の違いを当然のこととして受け止め、それを大切に思うことだと分かりました。茨大の授業については、内容以前に、学生のやる気が問題で、学生にやる気がないなら、何をやっても無駄だと思います。茨大生の中には、しっかりした目標を持って勉強する人も多数いますが、知識を積みかさねていく勉強に熱心でなく、大学入ったらまるで単位と遊びのために生きているような気がする学生も多くいる気がします。自分自身はもっと大学生らしく勉強をしようと思います。大学生は基本的には自由度の高い生活を送ることができますが、与えられた時間を自分なりに活用して、キャンパスライフをより有意義にしていこうと思っています。

主体性をどう考えようか

北島隆行（人文科学研究科2年）

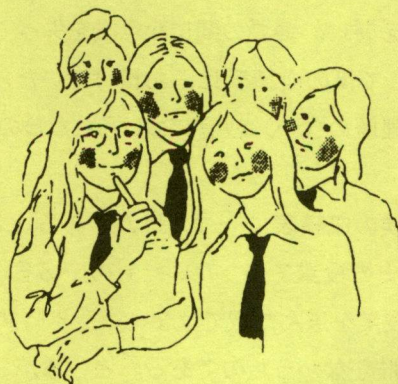
私の学部時代は、その後半部（3・4年）を学生間・教官と学生間の交流団体（専攻会）活動のなかで過ごした。同じ専攻を志す学生と先生の集合体であるが、1年を通して様々な交流活動を展開した。特に3年生の時は企画の一端を担い、当時のカラーを学生自らの手で演出することに心がけた。

少々小生意気なことを言ったが、1・2年の頃は、というとどんなに頭をひねっても、ただただ授業を受け、サークルに行き、コンパをし、一応それなりの学生生活だった。

しかし、先の「小生意気」を言える素地は1・2年の生活に求めることができるのではないだろうか。やや強引かもしれないが。授業・サークル等狭い空間ではあるが、それぞれの空間でものを見、聞く。考え、行動するまでにはいかないが、今思うとそれだけでもよかったと肯定的に振り返ってしまう。

行動に移すにはそれ以前の、従来の生活や環境に問題点・批判点が前提としてあることは自然である。その問題点の抽出を1・2年で無意識のうちにしていたと考える。おこがましい話かもしれないが。

なにもコトを起こそうというのではない。就職窓口の生活だけではなく、ささやかな要求を満たし、行動するのも悪くはない。主体性は欲求から始まる。皆さんを囲む仲間がいる。共に歩もう。



「再度学部一年からやり直すとすれば」

本田 敦（理学研究科1年）

人はその時が過ぎて初めてその価値に気付くものである。大学時代は人生の中で最も多彩な知識と経験を得られる人間形成の最良の時期である。そう聞かされていても当時その只中に居た私にはその実感や認識に乏しかった。学部を卒業した今、大学四年間を客観視してみると、いかに多くのチャンスがこの四年間に与えられていたかが分かる。一見興味の薄い分野でもその中に何かの光を見ることがあり、多くの学問に触れる中で本当の自分の目指すものが見

えてくる。その過程には、一つの分野だけを頭においていた院生にはない多くの選択の余地と可能性がある。もちろんそれは学問に限った事ではない。様々な事に触れる中で自分の色が出来上がってくるものだ。

もし再度学部一年からやり直すことが出来るならば、今までそこにありながら無視してきた、数多くの事柄（学問、人間関係、ボランティア等）に少しでも多く挑戦してみたい。四年間は何かを完成させるには短い期間かも知れないが、自分がすべき何かを見つけるには十分な時間であるのだから。

教養教育古今東西

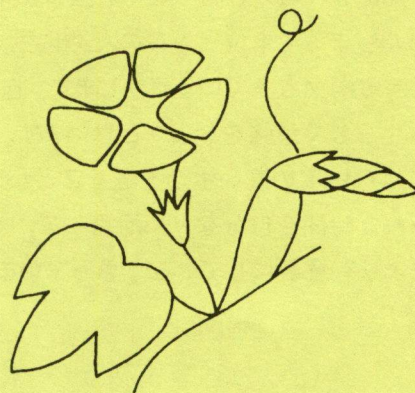
教養教育の現在的意味

最初に白状してしまおう。教養時代、僕は良い学生ではなかった。今でも教養の成績表を思い出すと冷や汗がでる。入学と同時に僕は漕艇部に入った。受験勉強からの解放感が僕を無謀にしていたのだろう。高校時代、運動が全く不得手だったことを思うと、大胆としか言いようがない。都内の漕艇部は皆そうだが、ここもキャンパスから遠く離れた戸田に合宿所があり、年中合宿形式で早朝からボートを漕いで（漕がされて）いた。ベンハーのガレー船の世界である。練習が終わると食事を済ませ、必要があれば大学に向かう。僕は真面目な学生だったから、できる限り授業に出席した。しかし体は正直である。授業が始まった途端に猛烈な睡魔が僕を襲い、いつの間にか意識を失っているのだった。かくして僕の成績表は、お情けでいただいたCと、厳しい（理解のない）教官につけられたDの行進となった。

そんな僕の成績表に一つだけAがある。これはS先生の米国史の授業でいただいたものである。別に意図してこの授業を選んだ訳ではない。空き時間の関係で、他に選択肢がなかったのである。ところがこの授業が、

眠気を吹き飛ばす面白さに満ちていたのだった。20年近く前のことである。板書が主体の、今から思えば地味な授業であった。しかしS先生が語ると、独立戦争、奴隷戦争、南北戦争、大恐慌の真相が実にヴィヴィッドに伝わってくる。声は決して大きくないが、発せられる言葉は計算しつくされており、一つの無駄もない。受講学生は10名ほどだったろうか。皆リラックスして聞いていた。そこには、同じ知的興奮を共有している、という確かな思いがあった。試験の時には、驚くぐらい良い答案が書けた。答案を出した瞬間にAを確信していた。大学には、そんな授業もある。良い授業を発掘することに、もっと真剣になってもいい。

乾 正知（工学部）



「ケンカ」ができるようになる！

日々の暮らしにはすぐには承服できないことが結構あるものだ。学生の君だってそうだろう。無理なことを押し付けてくる友人、納得できないことを授業する教官、そんな奴に出会ったら、我慢するか、ケンカするか、どちらかだ。

ケンカというのは、腕力で叩きつぶして勝てばよいものではない。相手をよく観察し、弱点をついてあわてさせる。自分に不利と見れば土俵を変えたり、時には逃げ出しもする。あの手この手を使って自分に都合の良い方に事を運んでいくのがケンカというものだ。やり合っているうちにケンカ相手と意気投合することだってあるかもしれない。しかし、それには準備が必要だ。

「教養教育の現在的意味」とはケンカができるようになるためということだと思う。

現代においては、限られた「専門」しかわからない「教養」のない人間はケンカすることができない。だから、承服できないことがあっても我慢するしかない。ケンカを通じて人のネットワークを広げて行くことができない。それではつまらない。

相手の見る目を養い、いざというときに使える武器の入ったポケットをいっぱい作り、自分の得意手を増やす。教養教育の中でそんなケンカの準備をしていてほしいと私は思う。（実地訓練をするのもよいかもしれない！）

木村 競（教育学部）

雑学のすすめ

20年ぶりに大学へ戻っての驚きは、キャンパスが整然ときれいな感じになっていたことです。私が現役学生だった頃の大学は、雑然と立看が並び、埃っぽいキャンパスという感じでした。大学の風景が変わったばかりでなく、すれ違う学生たちの雰囲気もずいぶん変わり、時の流れを感じています。

さて、大学に戻った社会人からのメッセージということですが…、正直、学生時代の私と比べて、今の学生さんは、真面目だと思います。ですから、内留生として大学に戻って勉強できる機会に恵まれ、「もっと学生時代に勉強しておくんだったなあ。」なんて思っているのは、私だからであって、きっと今の学生さんには無縁でしょうね。

昔学生だった先輩として今の学生さんに一つだけ言うなら、「雑学のすすめ」ですね。自由になる時間がある時代です。自分が興味のあることに対して、とことんむきになってできるのは、学生時代だからこそです。大学の勉強に限らず、どんなことでも、自分が興味を持ったことに、広く・深く・場所を選ばず学んでください。損得や将来役に立つか立たないかなんていう基準でなんか選ばず。自分の自由な想いに従って、とことんやってみましょう。学ぶことを面倒臭がっているのは、若さがないですよ。

飛田祥子（教育学部内留生）

掲 示 板 コ ー ナ ー

企 画 室 だ よ り

《教養教育係が設置されました》

大学教育研究開発センターの企画室は、教養教育第一係と教養教育第二係が統合され、新たに教養教育係がこの6月2日から設置されました。（共通教育棟1階です）

また、学生部に学生センターが開設されて、6月2日から諸証明の発行・交付に関することはすべて学生センターで行うことになりました。

教養教育係の業務内容は、教養科目の授業に関すること全般ですが、主として次のようなことを行いますので、気軽に窓口に来て問い合わせください。

【教養教育係の窓口業務】

- ◎ 履修科目届に関すること。
 - ◎ 履修登録確認表に関すること。
 - ◎ 教育科目予備届に関すること。
 - ◎ 教養科目に関すること。
- ◇履修相談 ◇授業時間割 ◇定期試験 ◇追試験
◇レポート ◇成績評価 ◇教室

教 養 教 育 N O W

「大学教育研究開発センター年報」の発行

吉田昭久（前研究開発部長）

本来ならば昨年度内に発刊するのが当然のことなのですが、諸般の事情から「大学教育研究開発センター年報」第1号の発刊が5月になってしまい、責任を痛感しているところです。それにつけても、学生諸君を含めて茨城大学全構成員の協力があってはじめて、茨城大学改革の証として発足した「大学教育研究開発センター」の一年間の活動の記録が発刊できたと、感謝しています。

内容はおおむね三部から構成されていて、まず、昨年11月末に実施された「教養教育の授業に関するシンポジウム」のほぼ全記録を整理し掲載しました。教職員や学生の皆さんにとって、茨城大学改革に対する「センター」からの課題提起になれば、幸いです。

次に、「教養教育に関する基本調査」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及びⅣの調査結果と、「学生支援に関する基本調査」の調査結果に関する基本統計を、また、そこで得られた自由記述を整理したものを掲載しました。基本統計の結果と自由記述を整理したものについては、茨城大学の点検・評価の視座から種々の位置付けが可能と思われます。教職員、学生の皆さんの活用を期待します。

三点目は、「大学教育研究開発センター」の一年間の諸活動記録に関して、継時的に整理したものを掲載しています。「センター」が茨城大学改革の実効性を挙げるべく、十二分とは言えないまでも、奮闘努力していることを理解願いたいと思います。

今後とも、学生諸君を含めた茨城大学全構成員の協力を期待して止みません。なお、この年報は図書館本館2階の大学改革関係資料コーナーに置いてありますのでご覧下さい。

+++++

「教養教育のための100冊」について

山下恒男（附属図書館長）

すでに授業等で配布されて、皆さんの手元にあると思いますが、標題にあるような小冊子が出来ました。

茨城大学の先生方が一年生の諸君のために推せんさ

れた本の紹介（解説）文をまとめたものです。これ自体が諸君へのメッセージです。

多様な本が網羅されていますので、ぜひ一冊でも多くの本を実際に読んでみて下さい。本館、分館にこれらの本を集めたコーナーがあります。

つ ぶ や き

平成9年度が始まりピカピカの新入生を迎えたと思ったら・・・もう6月・・・産声を上げて初めて親元を離れた学生さん、寂しさにはなれましたか??? これからは何事も自分でやらなければなりません。学園生活で早く多くの友人を作り話し相手を見つけて下さい。6月からは、今まで教養教育第二係で発行されていた諸証明書類は学生センターの自動発行機で発行されることになります。機械の前でウロウロしては機械は話しかけてくれません・・・勇気を持って誰とでも友達になろう。今回のニュースレターでは、留学生からと先輩諸氏からの意見が掲載されています。皆さんの学園生活の参考となるようによ～～～読んでおこう。

(Y.Y.)

発 行 日 平成9年7月
 発 行 者 茨城大学
 大学教育研究開発センター
 水戸市文京2-1-1
 029(228)8416〔企画室教養教育係〕

V o i c e

先輩から後輩への言葉

斎藤昌晴（教育学部2年）

前学期は、履修科目の選択、大学へ来て初めての授業、テストなどと、一年次のみなさんはとてもあわただしく半年が過ぎてしまったのではないのでしょうか。昨年の自分のことを思い出してみると、何かなんだか分からないまま半年が過ぎてしまったような気がします。ただ、夏休みが明け、後学期になれば、大学がどういうところであるのか少しずつ分かり始め、自分の中で少しはゆとりが出てくるのではないかと思います。そこで、助言になるかどうか分かりませんが、後学期への心構えをいくつか述べておこうと思います。

まず、できることややりたいことはやっておこうということです。たとえそれがちいさなことであったり、くだらないことであったとしても、後悔をしないようにやってみるべきだと思います。特に、一年次の後学期は、大学の生活にも慣れ、自分の時間を比較的とることができるのではないかと思います。頑張ってください。

次に時間を有効に使おうということです。これは、時間を合理的に使っていくという意味だけではなく、有意義な時間を過ごそうということです。例えば、半日間、何もしないで考え事をしていたり、友人とお話をして過ごしたとしても、それが自分にとって有意義なものであれば、有効に時間が使えたといえると思います。大学生活という中で、有意義であったと思える時間を過ごしていきましょう。

最後に、後学期でとる授業や、通年である語学の授業は、しっかりとっておきましょう。特に語学は通年であり、必修なので前学期あまり良くない成績だった人は、特に頑張りましょう。

あまり参考にならない話ばかり述べてしまいました。が、自分で何か目的意識を持って後学期を迎えてください。

後学期履修の心構え

高木明子（工学部2年）

本当に興味のあることがあって、その授業を履修することも、素晴らしいことだと思うし、とりあえず単位を取るために、比較的楽そうな授業を選ぶことも、またいいことだと思う。はっきり言って、私には「こんな風に履修した方がいいよ」なんて教えることはできない。どれを選択するかは、人それぞれの考え方だと思うし、どうしたらいいのかわからない時は、思い切り悩めばいいのだ。そうやって自分なりの答えを出していくことも、大学で学ぶべきことのひとつであると思うからだ。

とはいえ、ここで文章を終わらせるとかなり不親切なので、一応例として、私の履修方法をあげてみる。私は、前期に興味のある授業ばかりを選んだ。履修案内を読んで、面白そうなものに片っ端からチェックを入れ、取れるものは全て取った。結果は、授業の取り過ぎか、はたまた知能が低すぎたのか興味があった割には惨敗した。けれど、私はまた後期の履修も、自分の好きなものばかりを選んだ。結果は前期とさして変わらず、あまり華々しいものではなかった。しかし、私はけろっとしている。それは自分で納得して選んで履修したからだ。授業はとても面白かったし、何かを得て一つ成長した気分にもなれたし、（成績はともあれ）私はとても満足していたのだ。とにかく、最終的に自分が納得できるかということだと思う。あとで後悔しないように、思いついたことは何でもやってみるべきである。



教養教育古今東西

— 教養教育の現代的意義 —

世間では、限られた領域しか知らない人は専門馬鹿と嘲笑され、雑学のすすめがもてはやされる傾向にある。もちろん、これは、広い視野から柔軟に思考する重要性を説いており、このこと自体は、否定されるべきではない。しかし、教養科目は、専門科目に対比されている。教養として得た知識は、専門で生かされなくてはならない。この点を認識しないままに、雑学のすすめを説くことは、悪弊をもたらすように思われない。筆者を含めた(?)近年の若者は、軽薄短小の言葉に象徴されるように、小手先の知識を得るのは大変うまい。コンパクトにまとめられた受験参考書に慣れ親しんだ者にとって、むしろ、欠如しているの

は、専門知識を習得する術、さらには、隣接分野の知識を応用する術なのである。安易な雑学のすすめは、専門科目からの逃避でしかなく、教養科目のつまみ食い、ひいては、専門科目の未消化という事態しかもたらさない。かかる事態を克服するには、なによりも、個人の目標がはっきりしていなくてはならない。確固たる問題意識に裏打ちされた対象の設定がなければ、教養科目も専門科目もその基盤を危うくする。学生の方々は、まずは、自分のやりたいことを見つけてほしい。さらには、自己の責任で選択したからには、世間の風潮に流されることなく、それを極めようとする気概をもってほしい。 住田英穂(人文学部)

教養教育に対する考え方は国によってかなり異なっている。日本の大学では全方面の教養を身につけるため、自分の専門以外の科目もたくさん受講する。例えば、工学部の学生でも、文学や、社会学や、日本事情などのような科目を卒業必要単位数充填のため、取らないといけないことになっている。一方、中国の大学では、専門教育に必要な教養科目しか開講していない。ただし、専門教育に必要な教養科目をもっと長い時間でしっかりマスターする構成となっている。これは国の事情による教育方針の違いであると思う。日本の大学では、皆さんが無事に社会の一人となるため、教育カリキュラムが組ま

れている。それに対して、中国の大学では、中国の科学技術を先進国に追いつかせるため、科学技術者(いわゆるエリート)を育てる教育カリキュラムが組まれている。

現在の日本の教育カリキュラムでは学生の自主性が強く要求される。つまり、沢山開講されている科目中、自分が方向性をしっかり持って自分の将来に役に立つものを選択すべきであろうと思う。皆さんは、自分が将来何になりたいかをしっかり持って、受講する科目を選ぶことを勧める。ただ何となく大学に入って、卒業さえすればいいと思うと、大学にいる4年間は無駄になるであろう。 馬 書根(工学部)

私が高校2年生の時、英語の授業中先生が「大学に進学するのとこのまま社会にでるのは大違いだから、とにかく大学に行きなさい」という発言をした。これは私の高校生活の中で最も印象に残った言葉の一つであった。その当時は、「それは大学に進学しない人への差別だ」と憤慨したが、今ではその意味が理解できるような気がする。これには大学を卒業すればそれに見合っただけの教養と人格形成がされていなければならないという意味が込められていたのだと思う。

日本の高等学校までの普通教育の水準は高いといわれ、大学に入ってから一般教育をさらに2年間(あるいは1年間)受けるのはカリキュラム、教育内容面で重複していて「ムダ」なのではないかという議論が繰り返され、大学における教養部は解体した。確かに高校と教養教育におけるカリキュラムには重複する部分があるかもしれない。しかし、高校と大学の教養教育のカリキュラムにおける大きな相違点は「選択の自由」が存在することである。卒業のための必要単位数とい

う制約はあるが、なにも成績表にすべて「A」を並べる必要はないのである。学生にとってそれよりも大事なことは、就職や単位の取り易さなどを第一に考えるのではなく、本当の意味での自分のためにこの「選択の自由」を生かし、受動的ではなく能動的な行動や物事に対する熱意をこの時期に身につけることである。また、我々教官にとっては、この「自由とムダ」を学生各人の頭と意志で、かつ真面目に考えられる貴重な時間とカリキュラムを学生に提供することが教養教育において極めて大事なことはないだろうか。

教養部が解体した今でも教養教育は、間違いなく学生の人間形成には欠くことのできない「時間」である。最近、心に余裕がないために集団生活に馴染めず、心の病にかかってしまう学生や何事にも熱意の感じられない学生を少なからず見かける。学生の皆さんには、この教養教育の「時間」をもっと有意義に(自由に、真面目に、かつ意欲的に)過ごしてもらいたい。

白岩雅和(農学部)